

KOFU21

Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ

THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21



2025 年 10 月 07 日 (火) 発行

編集長 野々垣和宏

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨 Y M C A グローバルコミュニティセンター

☎055-235-8543 fax055-235-8553 Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	エドワード・オン(シンガポール)	「信念、愛、行動」 (Faith, Love, Action)
アジア太平洋地域会長	田上 正(熊本むさし)	「信念と愛を持って行動しよう!」 (Act now with faith and love!)
東日本区理事	山下 真(十勝)	「ワイズのらしさ再発見」 (Rediscovering Y's Uniqueness)
あずさ部部长	山口 直樹 (東京武蔵野多摩)	「垣根を低くし、活発な活動を」
甲府21クラブ会長	水越 正高	「35周年で育む会員の絆と、青少年の未来を創るクラブへ」 (Connecting the Next Generation)

甲府21ワイズメンズクラブ

2025 年 10 月会報

今月の強調テーマ

EMC

今月の
聖句

「強く、雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。主が共におられる」

ヨシュア記 1 章 9 節

選者 荻野 清

10月 巻頭言

甲府 21 ワイズメンズクラブ

会長 水越正高



富士山例会の際に参加した、キノコ狩りツアーでの一枚

気がつけば朝夕に秋の風を感じる季節となりました。木々の葉も少しずつ色づきはじめ、1 年の折り返しを静かに告げているようです。

この時期、私はふと立ち止まり、過ぎた時間を振り返ることが多くなります。特に今年の 9 月は、“人とのつながり”と“未来への希望”を強く感じた月となりました。

9 月 20 日に開催された「ぶどう棚下例会」では、アジアユース代表として活躍された風間さんによる報告を中心に、甲州市勝沼のぶどう棚の下で語らいと食を囲みました。風間さんの国際的な経験や想いがまっすぐに届き、会場の誰もが「次世代」へのまなざしを持ち直したのではないかと思います。自然の中で交わされた言葉のひとつひとつが、クラブの温かさや未来へのエネルギーを改めて感じさせてくれる時間となりました。

また同月、富士山 YMCA グローバルエコヴィレッジにて「ユースリーダーズ・ボランティア・フォーラム(YVLF)」が開催されました。テーマは「環境問題」。ユースたちは富士山の環境保全に取り組む講師から学び、ディスカッションを重ね、最終日には自分たちの提案をプレゼンテーションとして発表しました。生ごみを肥料に変えるアイディアや、歌を通じて環境教育を届けるユニークな発想など、自由で前向きな議論が生んだ熱意あふれる提言は、大人たちにとっても大きな学びとなりました。

そして、私たちが進めてきた夢基金事業もいよいよ実を結びました。ユースリーダーが整えてきた「銀河鉄道の森」という場所を舞台に、子どもたちへ自然体験の機会を提供するイベントを無事開催することができました。この取り組みは、単に子どもを“連れていく”活動ではなく、ユースが“場をつくる”主体者として関わり、子どもたちと共鳴する関係が育まれた、大変意義深いものであったと感じています。

未開の森で、初めて出会う仲間と過ごす中で、子どもたちは自ら考え、行動し、互いを思いやる時間を過ごしました。それはユースにとってもまた、実践的なリーダーシップと学びの機会となったことでしょう。困難も多い中、会員の皆さま、そして関係者の皆さまのご尽力があったからこそ、実現した活動です。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

そしてもうひとつ、私たちにとって大切な季節が近づいています。11 月には、クラブ最大級の行事であるチャリティーバザーが控えています。準備が本格化する中で、これまで積み重ねてきたクラブの力とつながりを、さらに広げ、実らせる機会となることを願っています。多くの方と心を通わせながら、成功に向けて力を合わせてまいりましょう。

2025 年 10 月第 1 例会プログラム

2025 年 10 月 7 日 (火) 18:30～

山梨 YMCA 3 階大澤英二記念ホール「ハテル」

開会点鐘 司会 佐藤利 書記 水越正高会長

ワイズソング / 信条

会長挨拶 / ゲスト紹介

今月の聖句・ひと言

ハッピーバースデー

ワイズディナー

YMCA 報告 / 諸報告

YMCA の歌

閉会点鐘 水越正高会長

水越正高会長

荻野清副会長

水越正高会長

中秋の名月と満月について

ブリテン編集長野々垣和宏です。みなさんご存知のように今夜の月は「満月」ですが、中秋の名月は昨夜でした。国立天文台の HP でいろいろ調べてみましたら、2021 年～2023 年までは名月と満月が一致していましたが、2024 年～2029 年はズレています。それは、中秋の名月を決めるのは、「太陰太陽暦」だからです。暦の計算は、複雑で「沼」でもありますが、興味ある人は、「メトン周期」「カリポス周期」、グレゴリオ暦、ユリウス暦などを調べてみてはどうでしょうか。

▽次回、中秋の名月と満月が一致するのは・・

年	名月	望 (満月)
2021 年	9 月 21 日	9 月 21 日 08 時 55 分
2022 年	9 月 10 日	9 月 10 日 18 時 59 分
2023 年	9 月 29 日	9 月 29 日 18 時 58 分
2024 年	9 月 17 日	9 月 18 日 11 時 34 分
2025 年	10 月 06 日	10 月 07 日 12 時 48 分
2026 年	9 月 25 日	9 月 27 日 01 時 49 分
2027 年	9 月 15 日	9 月 16 日 08 時 04 分
2028 年	10 月 03 日	10 月 04 日 01 時 25 分
2029 年	9 月 22 日	9 月 23 日 01 時 29 分
2030 年	9 月 12 日	9 月 12 日 06 時 18 分



9 月ぶどう棚下例会報告

書記 佐藤 利之

日時 2025 年 9 月 20 日 (土) 11:00～

会場 甲州市勝沼「ぶどうの丘」

2025 年 9 月の第一例会 (ぶどう棚下例会) が勝沼ぶどうの丘で開催されました。昨年と対照的に曇り時々雨の非常に過ごしやすい気温の中、たくさんのゲストにご参加いただいて盛大に行われました。

第一部は会議室で例会が行われました。水越会長の挨拶では、恒例となったブドウ棚下例会のすばらしさをあらためて説明いただき今後も末永く続けていければと思わせていただきました。

ゲスト紹介ではゲストの皆様からこの日を楽しみにしてくださっていた思いが伝わる温かいお言葉をいただきました。

今回の卓話は山梨 YMCA ユースリーダーの風間さんから AYC の報告をしていただきました。運営チームの編成からすべて風間さんが主導となり長い年月をかけて準備し当日を迎えられた行動力、熱意に感動しました。プログラムを通じて参加メンバーとの交流、学びがわかりやすくリアルに伝わってきて素晴らしい内容、経験だったのが伝わってきました。本当にお疲れさまでした。

みんなで記念撮影を行い第二部懇親会が行われました。

今回は今年の暑さ対策を考慮し室内での開催です。

食前の挨拶を後藤ワイズ、乾杯の挨拶を山口あずさ部長にいただき会がスタートしました。富士五湖クラブ尾崎様より特大の地ビールのふるまいあり、山梨県産ワインの飲み放題ありとても楽しく、和やかな時間をおくることが出来ました。

皆様おつかれさまでした。また来年もよろしくお願いいたします。

○9 月第一例会ぶどう棚下例会出席数 :22 名

会員数 45 名

出席率 :48.9%

メネット 8 名

ゲスト :<敬称略>

YMCA より 中田純子、風間奈月

山口直樹あずさ部長

八王子クラブ 久保田貞視、小口多津子、長谷川あや子、岡恒修武、花輪宗命

長野クラブ 湯田勝彦

富士五湖クラブ 尾崎浩、尾崎時恵、三浦洋美

甲府クラブ ピーターマウントフォード、小倉恵一 計 14 名



聖句について

<聖句についてひと言>

荻野 清

《一言》

10月聖句として、ヨシュア記1章9節は、希望と励ましの聖句で、新しい挑戦や旅立ちの場面にぴったりの力強いことばです。また、試練を通じて成長するという、苦しい時期にも意味があると教えてくれる、心の支えになる教えです。

このメッセージの、「強く雄々しくあれ」は、単なる勇気ではなく、神に信頼することによって得られる内なる力を意味し、「恐れてはならない」は、人間的な不安や恐れに打ち勝つための神の保証であり、そして「主が共におられる」は神の臨在こそが私たちの最大の支えであり、約束が与えられている、というものです。

この節は、われわれワイズメンズクラブの事業のための、まさに心の支えとなる言葉といえます。新しいイベント企画、予期せぬ困難に直面したとき、リーダーとして責任を感じているとき、そんな時こそ、この節を思い出すことで前に進む勇気が湧いてきます。

<10月の誕生者>

<敬称略>

<メソ>

内田 良幸 10/3 溝口さと子 10/8

佐藤 重良 10/12 荻野 清 10/19

市川 将来 10/23

<メネット>

松村 仁子10/5 野々垣悦子10/5

江口三代子 10/18



今後の予定

10月7日(火) 第1例会 18時半

10月21日(火) 第2例会 18時半

10月25日(土) 杉田博子ソプラノリサイタル
@リッチダイヤモンド甲府市総合市民会館

11月2日(日) バザー前日準備

11月3日(月祝) バザー(第2例会)

11月8日(土) 八王子クラブ例会にて後藤メ
卓話@ベテル教会 13:00~

リサイタルを控えて

赤とんぼ の4番に思う

杉田 博子

赤とんぼの歌詞を掲載します。

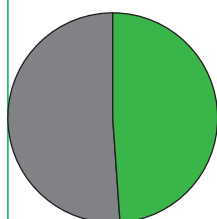
- 1番 タヤけ小やけの赤とんぼ
負われて見たのはいつの日か
- 2番 山の畑の桑の実を
小籠に摘んだはまぼろしか
- 3番 十五で姐やは嫁に行き
お里のたよりも絶えはてた
- 4番 タヤけ小やけの赤とんぼ
とまっているよ竿の先

過去の回想であり、「姐や」に負ぶってもらい、見たのはいつの日だったのか。桑の実と一緒に摘んだっけ。その姐やも、15歳で嫁にいき、それ以降消息が絶えてしまった。大切な人との別れが永遠のものとなった寂しさ。

そして、4番。

目の前に、竿の先に、とまっている赤とんぼ。遠い昔の思い出を運んできた赤とんぼ。そんなことを思いながら、私は歌います。

<9月例会出席者>



会員数	45名
第一例会出席者	22名
ゲスト出席者	14名
メネット	名
総出席者数	24名
出席率(会員のみのみ)	48.9%

会計報告

会計 山口 了

[会計報告]

2025年9月末現在



項目	ニコニコ	バザー	トータル
目標値	250,000	100,000	350,000
9月の合計	20,200	0	20,200
8月末迄累計	66,200	0	66,200
達成率	26.5%	0%	18.9%

銀河鉄道の森デイキャンプ



銀河鉄道の森 ゆめ基金採択事業第一回を実施して（子供たちが森に命を吹き込んだ）

実行委員長 甲府 21 佐藤重良

概要： 参加者 子ども 29 名 保護者 3 名 合計 32 名
YMCA 3 名 ユースリーダー 5 名 甲府 21 ワイズ&メネット 29 名

□令和 7 年度 子どもゆめ基金助成金交付申請をしましたところ助成活動について交付要領の規定に基づいて交付決定の通知を第 1 号として令和 7 年 4 月 1 日付けに受け取りました。ワイズメンズクラブ国際協会東日本区としても、初めてこの助成金を獲得したものだと思います。交付申請内容（韮崎市中田町 銀河鉄道の森デイキャンプ）に基づいて、山梨 YMCA の皆さん、ユースリーダーの皆さんのご支援・ご協力をいただき、9 月 23 日、甲府 21 クラブ主催「銀河鉄道の森デイキャンプ第一弾」を実施しました。

□7 月初めに参加者募集のチラシをブリテン委員長に作成してもらいました。一番不安だったのは、予定通り参加者が集まるだろうか、でした。とにかく、全力を尽くして皆で知恵を出し合い、未知への挑戦をしようと手分けしてチラシ配布を始めました。公共施設へのチラシ配り、小学校へのお願い DM の発信、自分の町内でのポスティング・チラシ配り、甲府市の子供クラブの団体への働きかけ、甲府市役所の担当部署への働きかけ。チラシ手渡し作戦（休日の子供・保護者様へ）、山梨 YMCA の子供達・保護者の方へ、YMCA の玄関で、チラシの手渡し作戦等実施しました。徐々にお申込が入るようになりました。

<申込み推移> 募集定員 25 名

8/18	1 名	1 名	
8/19	2 名	3 名	
8/24-31	8 名	10 名	
9/1-7	13 名	23 名	
9/8-14	10 名	33 名	* 当日 1 名発熱のため欠席

◎特筆すべきは、韮崎市立北東小学校 6 年生 6 名+2 年生 1 名の合計 7 名のグループ参加です。今後の「**銀河鉄道の森は地域にも愛される施設になるだろう**」ととても楽しみです。

□計画のプログラムの充実も考えなければなりません。デイキャンプの実施プログラムですが、当初「銀河鉄道の森」の山登りをして、森の中でたっぷりと自然の中を散策し樹木草花との中を体験（探検も）することを計画していました。しかし事前調査で登山道に難所があることで、子どもさんの安全第一を考え直前に計画の変更をしました。つまり、山登りは中段のお墓の有る平らなところまでとする。そこまでで体験・探検をやりたいということです。登山をしなれば、時間を持て余すのではないかと心配しましたが、子供は遊びの天才といわれております。「子どもたちの行動に、新しい変化が多くありました。」ブランコとターザンロープ 2 本のところに順番待ちの列ができ、争うこともなく楽しんでいました。誰が指示を出したわけでもないが、自然とルールができたのです。ターザンロープでは、声掛け合ってトライしました。大きなスイングのスリルを味わったら、今度は友達を大きな声で励ましなが楽しんでいました。子供と子供の間で互いの行動を認め合い、声掛けし、大きなスイングが起きると大きな声を出して認めあって楽しんでるようでした。喧嘩することもなく。もちろん中学生、小学生、女子など、年齢も男女も関係なく。ブランコは大きく揺れるほど楽しいようで、大きな揺れを自慢しているようでした。

大きな揺れを皆で一体となり楽しんでいるのだ。

これがそれぞれの子どもたちの体験なのだ。

体験することが子どもゆめ基金の大きな目的なのです。

□**銀河鉄道の森が、子供たちの大きな声で、楽しんでいる。**誰かが命令したわけでもなく 子どもたちは自然とお互い認め合い、お互いを励まし、大きな笑いと励まして、森が命をもらったように元気な声で沸き立っている。銀河鉄道の森が子供たちの遊びと、子どもたちの自発的なルールと、周りの人を励まし応援する声で、森は命を頂いた。明るく元気になったのだ。**大人は子供たちから 学ぶべし…でしょうか。**

□**昼のカレー**はおいしかった。メネットさんが夜なべして作っていただきました。大盛りの子ども、お代わりの子ども。焼き芋がとっても美味しかった、とこれまた大喜び。よく食べました。帰りの電車の中では、森の遊びで疲れたらしく居眠りしている子供さんもいたようです。森の神様とお話しているかもしれません。17 時には全部完了しました。皆さんご支援・ご協力ありがとうございました。体験・探検は大成功でした 第 2 回目に申し込みをしてお帰りになった保護者さんもおられました。「**こんなにたのしい体験なら また子供に体験させてあげたい**」、との申し込みでした。ありがとうございます。11 月 24 日お待ちしております。

佐藤重良 水越正高 野々垣和宏 小澤智之 藤原琢也 山口了 後藤哲夫 武井教子 浅川貴明 赤根学
興水順雄 小澤公紀 寺田喜長 松村禎夫 野々垣健五 荻野清 葉袋勝 飯田剛 佐藤利之 平田耕治
古屋秀樹 江口英雄 葉袋けさみ 寺田岸子 荻野優子 松村保乃 江口三代子 野々垣悦子 山本俊（敬称略）

お名前を載せられなかったみな様。チラシ配布・告知、お声掛けや、冒険手帳執筆など、いろいろありがとうございました。

大人な徘徊 第 4 話 ～ポルトガル 2014 年 5 月～



葉袋 勝



日	徘徊場所	宿泊地
5/26-29	羽田、リスボン、エボラ コインブラ、ペナ、シン トラ	リスボン
31-6/5	リスボン、ポルト	ポルト
6/5	ポルト	ロンドの
6/6	ロンドン、大英博物館	機内
6/7	羽田、甲府	

4. ポルトガル

(2014 年 5 月 26 日～6 月 7 日)

30 年前にブラジルで使った赤錆びたポルトガル語でしたが、何とかかなり、徘徊を楽しむ事が出来ました。生活のために使った言語は、中断時間が長くても忘れない事が実感されました。

世界に君臨したこの国は、各都市の町並みにも風格を感じられました。多分この風格は、建物や道がしっかりした石造りにより繁栄当時が偲ばれるからかもしれません。このような街並みを、老夫人が荷物を持ってとぼとぼと坂道を上がっていく姿が、今のポルトガルを象徴して見え印象的でした。

シントラの近くのロカ岬に到着し、ヨーロッパ大陸の最西端に立った感激は忘れられません。徘徊は、その地域の端っこまで行かなければなりません。ポルトでは濃厚のワインを満喫したことは言うまでもありません。

帰国の際、大英博物館を見学し、ロンドンの街を 1 日徘徊してきました。大英博物館の展示収蔵の素晴らしさは言うまでもありませんが、宗主国の力で現地から集めたことを考えるとチョピリ腹が立ってきました。

歩行数：207,340 / 15,949 歩

歩行距離：154.8 / 11.9Km



ヨーロッパ大陸最西端・ロカ岬（シントラ）



町並みを走る市内電車（ポルト）



大英博物館（ロンドン）

編集長野々垣和宏です。日本語になったポルトガル語を拾ってみました。

食べ物編

コロッケ (croquete) パン (pão) ボーロ (bolo) ビスケット (biscoito) ばってら / 鯖寿司 (bateira) カステラ (castella) 金平糖 (confeito) カルメラ (caramelo)

洋服編

ボタン (botão) かつぱ (capa) マント (manto)

その他

チャルメラ (charamela) カピタン (capitão) コップ (copo) じょうろ (jarro) おんぶ (ombro) シャボン (sabão) タバコ (tabaco) かるた (cartas)

ペンリレー

武井 教子

少しの楽しみについて

ワイズ新米メンバーの武井教子です。

皆さんいつもありがとうございます。

何を書いてもよいということでしたので、最近の少しの楽しみについて聞いてください。

数か月前、会社で卓球台を購入しました。

と言いましても、本格的なものではなく、とても小さく、古い温泉旅館でももう少しましなものが設置されているでしょう、といったとても小さな代物です。運動不足解消、瞬発力の鍛錬、気分転換を目的として購入しました。専ら、ラリーをいかに続かせるかに重きを置いてしまうため、少しも上達していませんが、やり始めると楽しいのです。ラリーの回数を上手く重ねられると連帯感と達成感が生まれ一緒に仕事をしている幼馴染の優しさを感じます。

卓球台が小さいので、少しでも力具合を間違えると、とんでもないところに球が行ってしまいます。ラケットを上から擦るようにボールにあてると、低めでかつ少し早めのサーブを成功させることがまれにあります。そういったものは反動で、返ってくるスピードも速いためそれにやられます。ド素人の私が卓球について話すなど、憚りがありますが、体を動かし、巡りが良くなると心も体も少しだけ良くなって楽しいという話です。熱心に行っているわけではないですし、本気で上達もきっと考えていませんが、そのことに集中する瞬間が楽しいのだと分析します。ふとした瞬間に始められ、疲れたら無理せず止めます。やることがありすぎると、心に余裕がなくなり、卓球に目が向かなくなりがちですが、卓球で気分転換ができるとその後の仕事も捗るのでないかと思っています。私の密かな楽しみをお聞き頂きありがとうございました。内容が地味なので、先日撮った八ヶ岳ガーデンプロジェクトの写真を添付します。



◆YMCA便り◆

「秋の交流に感謝を込めて」

総主事 中田 純子

秋風が心地よく感じられる季節となりましたが、甲府の夏の暑さは依然として厳しいものがございます。これまでワイズメンズクラブでは、地域に根ざした多彩な活動が展開され、会員の皆様のご活躍に深い喜びと感動をいただいております。

9月3日(水)には甲府・やまなみ合同例会が開催され、ゲストに東日本区山下理事、榎本書記、あずさ部山口部長をお迎えして、山梨 YMCA 本館3階「ベテル」にて行われました。9月20日(土)には甲府 21 ワイズメンズクラブ恒例の「ぶどう棚例会」が盛大に開催され、各クラブメンバーの絆が一層深まりました。また、卓話では熊本で開催された AYC に山梨 YMCA の風間奈月スタッフを派遣し、その体験に対する感謝と実施報告がなされました。続く9月23日(火)には21 ワイズメンズクラブがゆめ基金事業の支援のもと、「銀河鉄道の森デイキャンプ」を実施し、山梨県内の多くの子どもたちや親子が参加。自然の恵みの中で学びと喜びを提供されました。さらに、富士五湖ワイズメンズクラブは9月27日に富士山例会を開催され、美しい自然環境の中で全国のワイズメンとの交流が深まりました。今後の予定といたしましては、やまなみワイズメンズクラブと青洲高等学校との連携により、甲府駅北口のよっちゃばれ広場で毎年恒例の「グローバルフェスタ」を盛大に開催。地域と国際交流の輪を広げられるイベントになります。

そして、山梨 YMCA では11月3日に開催される第65回山梨 YMCA チャリティーバザーに向け、第一回実行委員会が開催され、多くのワイズメンズクラブのメンバーが積極的に参加されました。当日までに会を重ね、心をつなげて準備を進め、地域交流と支援のための大切な場を皆で創り上げたいと決意を新たにしております。

これらの活動に込められたワイズメン交流、国際色豊かな地域共生社会への思いが、より広く深く根付くことを祈っております。

